

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



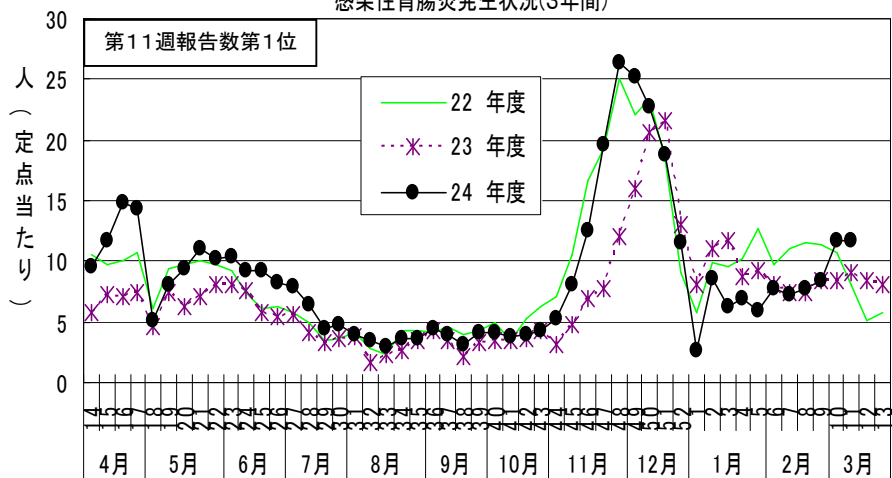
KAWASAKI CITY



## 平成25年3月11日（月）～3月17日（日）〔平成25年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎は定点当たり11.64人と前週（11.70）より患者報告数はやや減少し、例年よりやや低いレベルで推移しています。インフルエンザは定点当たり3.78人と前週（5.19）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。風しんの届出が22件（臨床診断例11件、検査診断例11件）あり、流行の勢いが増しています。一般に、風しんの流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



## 風しん流行の勢い増す！～春先に向け要注意～

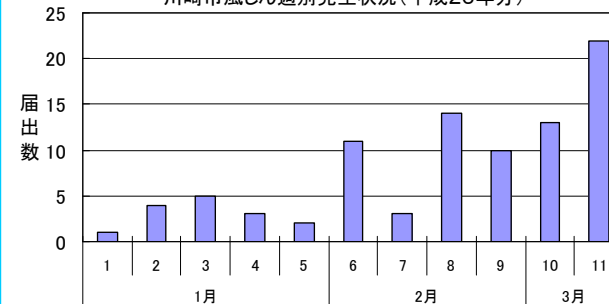
昨年6月以降、全国的に風しんの届出数が非常に多くなっており、市内においても例年を大きく超えるペースで患者が発生しています。平成25年においても1月以降、届出数は増加傾向が続いています(下グラフ参照)。

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を「先天性風しん症候群」といいます。

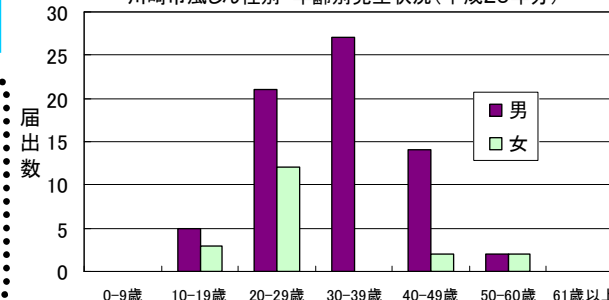
そのため、妊娠可能年齢までに、予防接種を検討しましょう。



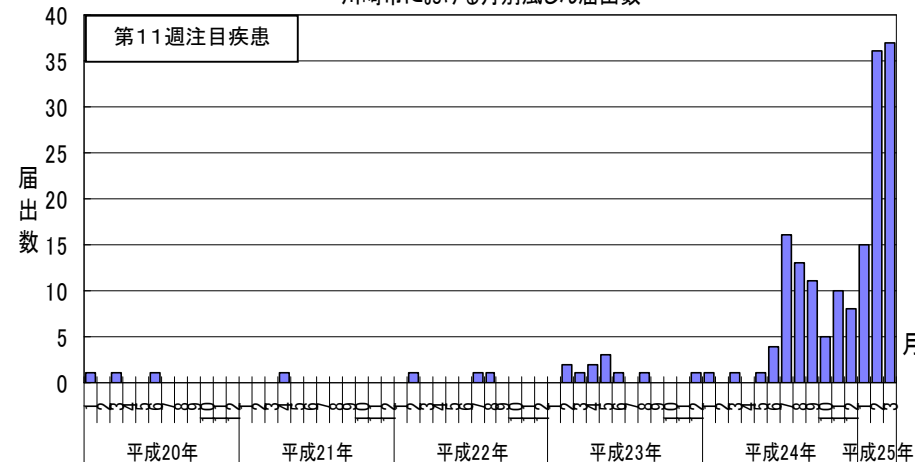
川崎市風しん週別発生状況(平成25年分)



川崎市風しん性別・年齢別発生状況(平成25年分)



川崎市における月別風しん届出数



1977年から始まった風しんの定期予防接種は、当初、将来妊娠する可能性のある女子中学生に限定されたため、20～40代の男性は予防接種を受けた人が少ない世代です。そのため、右グラフのとおり罹患割合が高くなっています。